

# IPA 品詞体系に基づく日本語辞書 説明書

松本裕治 浅原正幸

平成 12 年 12 月

Copyright © 2000 奈良先端科学技術大学院大学 松本研究室

Japanese Morphological Dictionary for ChaSen

Yuji Matsumoto and Masayuki Asahara

Copyright © 2000 Nara Institute of Science and Technology. All Rights Reserved.

Use, reproduction, and distribution of this software is permitted. Any copy of this software, whether in its original form or modified, must include both the above copyright notice and the following paragraphs.

Nara Institute of Science and Technology (NAIST), the copyright holders, disclaims all warranties with regard to this software, including all implied warranties of merchantability and fitness, in no event shall NAIST be liable for any special, indirect or consequential damages or any damages whatsoever resulting from loss of use, data or profits, whether in an action of contract, negligence or other tortuous action, arising out of or in connection with the use or performance of this software.

A large portion of the dictionary entries originate from ICOT Free Software. The following conditions for ICOT Free Software applies to the current dictionary as well.

Each User may also freely distribute the Program, whether in its original form or modified, to any third party or parties, PROVIDED that the provisions of Section 3 ("NO WARRANTY") will ALWAYS appear on, or be attached to, the Program, which is distributed substantially in the same form as set out herein and that such intended distribution, if actually made, will neither violate or otherwise contravene any of the laws and regulations of the countries having jurisdiction over the User or the intended distribution itself.

#### NO WARRANTY

The program was produced on an experimental basis in the course of the research and development conducted during the project and is provided to users as so produced on an experimental basis. Accordingly, the program is provided without any warranty whatsoever, whether express, implied, statutory or otherwise. The term "warranty" used herein includes, but is not limited to, any warranty of the quality, performance, merchantability and fitness for a particular purpose of the program and the nonexistence of any infringement or violation of any right of any third party.

Each user of the program will agree and understand, and be deemed to have agreed and understood, that there is no warranty whatsoever for the program and, accordingly, the entire risk arising from or otherwise connected with the program is assumed by the user.

Therefore, neither ICOT, the copyright holder, or any other organization that participated in or was otherwise related to the development of the program and their respective officials, directors, officers and other employees shall be held liable for any and all damages, including, without limitation, general, special, incidental and consequential damages, arising out of or otherwise in connection with the use or inability to use the program or any product, material or result produced or otherwise obtained by using the program, regardless of whether they have been advised of, or otherwise had knowledge of, the possibility of such damages at any time during the project or thereafter. Each user will be deemed to have agreed to the foregoing by his or her commencement of use of the program. The term "use" as used herein includes, but is not limited to, the use, modification, copying and distribution of the program and the production of secondary products from the program.

In the case where the program, whether in its original form or modified, was distributed or delivered to or received by a user from any person, organization or entity other than ICOT, unless it makes or grants independently of ICOT any specific warranty to the user in writing, such person, organization or entity, will also be exempted from and not be held liable to the user for any such damages as noted above as far as the program is concerned.

#### IPADIC

version 1.0b	25 May 1998
version 1.0	27 April 1999
version 2.0	15 December 1999
version 2.1	30 December 1999
version 2.4.0	6 December 2000
version 2.4.1	7 December 2000

# 目次

<b>1</b>	<b>説明の書式</b>	<b>2</b>
1.1	品詞名	2
<b>2</b>	<b>品詞名に関する注意事項</b>	<b>2</b>
<b>3</b>	<b>名詞</b>	<b>3</b>
3.1	名詞-一般	3
3.2	名詞-固有名詞-一般	3
3.3	名詞-固有名詞-人名-一般	3
3.4	名詞-固有名詞-人名-姓	3
3.5	名詞-固有名詞-人名-名	3
3.6	名詞-固有名詞-組織	3
3.7	名詞-固有名詞-地域-一般	3
3.8	名詞-固有名詞-地域-国	4
3.9	名詞-代名詞-一般	4
3.10	名詞-代名詞-縮約	4
3.11	名詞-副詞可能	4
3.12	名詞-サ変接続	4
3.13	名詞-形容動詞語幹	4
3.14	名詞-ナイ形容詞語幹	5
3.15	名詞-数	5
3.16	名詞-非自立-一般	5
3.17	名詞-非自立-副詞可能	5
3.18	名詞-非自立-助動詞語幹	5
3.19	名詞-非自立-形容動詞語幹	6
3.20	名詞-特殊-助動詞語幹	6
3.21	名詞-接尾-一般	6
3.22	名詞-接尾-人名	6
3.23	名詞-接尾-地域	6
3.24	名詞-接尾-サ変接続	6
3.25	名詞-接尾-助動詞語幹	6
3.26	名詞-接尾-形容動詞語幹	7
3.27	名詞-接尾-副詞可能	7
3.28	名詞-接尾-助数詞	7
3.29	名詞-接尾-特殊	7
3.30	名詞-接続詞的	7
3.31	名詞-動詞非自立的	7
<b>4</b>	<b>接頭詞</b>	<b>8</b>
4.1	接頭詞-名詞接続	8
4.2	接頭詞-数接続	8
4.3	接頭詞-動詞接続	8
4.4	接頭詞-形容詞接続	8
<b>5</b>	<b>動詞</b>	<b>8</b>

<b>6</b>	<b>活用形に関する注意</b>	<b>8</b>
<b>7</b>	<b>動詞の活用型一覧 (現代語)</b>	<b>10</b>
7.1	動詞-自立 力変 【活用形】	10
7.2	動詞-非自立 力変 【活用形】	10
7.3	動詞-自立 サ変・スル 【活用形】	10
7.4	動詞-自立 サ変・ースル 【活用形】	10
7.5	動詞-自立 サ変・ーズル 【活用形】	10
7.6	動詞-自立 一段 【活用形】	10
7.7	動詞-非自立 一段 【活用形】	11
7.8	動詞-接尾 一段 【活用形】	11
7.9	動詞-自立 五段・力行イ音便 【活用形】	11
7.10	動詞-非自立 五段・力行イ音便 【活用形】	11
7.11	動詞-非自立 五段・力行促音便 【活用形】	11
7.12	動詞-非自立 五段・力行促音便 【活用形】	11
7.13	動詞-自立 五段・ガ行 【活用形】	12
7.14	動詞-自立 五段・サ行 【活用形】	12
7.15	動詞-非自立 五段・サ行 【活用形】	12
7.16	動詞-自立 五段・タ行 【活用形】	12
7.17	動詞-自立 五段・ナ行 【活用形】	12
7.18	動詞-自立 五段・バ行 【活用形】	12
7.19	動詞-自立 五段・マ行 【活用形】	12
7.20	動詞-非自立 五段・マ行 【活用形】	12
7.21	動詞-自立 五段・ラ行 【活用形】	12
7.22	動詞-非自立 五段・ラ行 【活用形】	13
7.23	動詞-接尾 五段・ラ行 【活用形】	13
7.24	動詞-自立 五段・ラ行特殊 【活用形】	13
7.25	動詞-非自立 五段・ラ行特殊 【活用形】	13
7.26	動詞-自立 五段・ワ行ウ音便 【活用形】	13
7.27	動詞-非自立 五段・ワ行ウ音便 【活用形】	13
7.28	動詞-自立 五段・ワ行促音便 【活用形】	13
7.29	動詞-非自立 五段・ワ行促音便 【活用形】	14
<b>8</b>	<b>動詞の活用型一覧 (文語)</b>	<b>14</b>
8.1	動詞-自立 四段・ハ行 【活用形】	14
8.2	動詞-自立 ラ変 【活用形】	14
8.3	動詞-自立 上二・ハ行 【活用形】	14
8.4	動詞-自立 下二・ア行 【活用形】	14
8.5	動詞-自立 一段・得ル 【活用形】	14
<b>9</b>	<b>形容詞</b>	<b>14</b>
9.1	形容詞-自立 形容詞・アウオ段 【活用形】	16
9.2	形容詞-自立 形容詞・イ段 【活用形】	16
9.3	形容詞-自立 形容詞・不変化型 【活用形】	17
9.4	形容詞-非自立 形容詞・アウオ段 【活用形】	17
9.5	形容詞-非自立 形容詞・イ段 【活用形】	17
9.6	形容詞-非自立 形容詞・不変化型 【活用形】	17

9.7	形容詞-接尾 形容詞・アウオ段 【活用形】	17
9.8	形容詞-接尾 形容詞・イ段 【活用形】	17
<b>10</b>	<b>副詞</b>	<b>17</b>
10.1	副詞-一般	17
10.2	副詞-助詞類接続	17
<b>11</b>	<b>連体詞</b>	<b>18</b>
11.1	連体詞	18
<b>12</b>	<b>接続詞</b>	<b>18</b>
12.1	接続詞	18
<b>13</b>	<b>助詞</b>	<b>18</b>
13.1	助詞-格助詞-一般	18
13.2	助詞-格助詞-引用	18
13.3	助詞-格助詞-連語	18
13.4	助詞-接続助詞	19
13.5	助詞-係助詞	19
13.6	助詞-副助詞	19
13.7	助詞-並立助詞	19
13.8	助詞-終助詞	19
13.9	助詞-副助詞／並立助詞／終助詞	19
13.10	助詞-連体化	20
13.11	助詞-副詞化	20
13.12	助詞-特殊	20
13.13	助詞-間投助詞	20
<b>14</b>	<b>助動詞</b>	<b>20</b>
14.1	助動詞 五段・ラ行アル 【活用形】	20
14.2	助動詞 五段・ラ行ゴザル 【活用形】	20
14.3	助動詞 形容詞・イ段 【活用形】	20
14.4	助動詞 特殊・ナイ 【活用形】	21
14.5	助動詞 特殊・タ 【活用形】	21
14.6	助動詞 特殊・ダ 【活用形】	21
14.7	助動詞 特殊・デス 【活用形】	21
14.8	助動詞 特殊・ジャ 【活用形】	21
14.9	助動詞 特殊・マス 【活用形】	21
14.10	助動詞 特殊・ヌ 【活用形】	21
14.11	助動詞 特殊・ヤ 【活用形】	22
14.12	助動詞 不変化型 【活用形】	22
14.13	助動詞 文語・?? 【活用形】	22
<b>15</b>	<b>感動詞</b>	<b>22</b>
15.1	感動詞	22

<b>16 記号</b>	<b>22</b>
16.1 記号-一般 . . . . .	22
16.2 記号-アルファベット . . . . .	22
16.3 記号-句点 . . . . .	23
16.4 記号-読点 . . . . .	23
16.5 記号-空白 . . . . .	23
16.6 記号-括弧開 . . . . .	23
16.7 記号-括弧閉 . . . . .	23
<b>17 フィラー</b>	<b>23</b>
17.1 フィラー . . . . .	23
<b>18 その他</b>	<b>23</b>
18.1 その他-問投 . . . . .	23
<b>参考文献</b>	<b>23</b>

## はじめに

形態素解析システム茶筌は、言語処理のためのフリーソフトウェアとして奈良先端科学技術大学院大学より公開されているシステムです。本辞書は、茶筌 (version2.0 以降) に標準添付された日本語辞書 (ipadic2.4) で採用した品詞体系について説明したものです。本辞書では、情報処理振興事業協会 (IPA) で設定された IPA 品詞体系 (THiMCO97) に基づいて一部修正を加えました。本説明書は新情報処理開発機構 (RWCP) による「テキストデータベース報告書 (平成 8 年度)」に掲載された IPA 品詞体系 (THiMCO97) の説明を許可を得て抜粋し、一部修正を施したものです。

なお、現在の IPA 品詞体系日本語辞書は、1998 年 5 月に公開した IPA 品詞体系日本語辞書 (ipadic1.0b2) に対して、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科鹿野清宏教授を代表とする「日本語ディクテーション基本ソフトウェアの開発」(IPA 独創的先進的情報技術に関わる研究開発) のグループの方々に大幅な修正、改良を行っていただき、その後、様々な修正を行ったものです。

本辞書システムの構築に携わられたすべての方々にに対して心より感謝します。

平成 12 年 12 月 6 日

本辞書に関するお問い合わせは以下にお願いします。

〒 630-0101

奈良県生駒市高山町 8916-5

奈良先端科学技術大学院大学

情報科学研究科 松本研究室

茶筌管理開発担当者集団

Tel: (0743)72-5240, Fax: (0743)72-5249

E-mail: chasen@cl.aist-nara.ac.jp

また以下の URL にて「茶筌」および本辞書の最新情報を提供しています。

URL: <http://chasen.aist-nara.ac.jp/>

# 1 説明の書式

## 1.1 品詞名

以後、品詞名のことを「タグ」と呼ぶことがある。それぞれの品詞の説明の際に、以下の記号により注釈が付けられている。

# 品詞の解説

例：単語例

\* 品詞の解説についての備考

& 読み、活用形についての備考

## 2 品詞名に関する注意事項

本日本語辞書は、IPA 品詞体系 (THiMCO97) に基づいているが、茶筌の辞書として組み込む際にいくつかの変更を行なった。品詞体系の特徴と変更点について以下にまとめる。

- 品詞は、多段の階層に分類されている。例えば、「名詞 固有名詞 人名 姓」は、四段の階層よりなる品詞名である。以下では、これを「名詞-固有名詞-人名-姓」のようにハイフンで区切って表示する。茶筌 2.0 では、任意の段数の品詞階層の定義が可能になったので、これを直接文法ファイル (grammar.cha) に定義することができる。
- THiMCO97 では、「動詞 一段 連用形 自立」のように、品詞の分類と活用型、活用形が混ざり合った形で定義されていた。茶筌では、品詞の分類の定義と活用に関する定義が分離されているので、これを「動詞-自立 一段 連用形」のように3つの項目 (品詞名、活用型、活用形) に分けて記述することにした。
- 品詞名の定義に用いられる分類名を以下の基準に従って変更した。

- 「(助動詞語幹)」「(形容動詞語幹)」のように丸括弧を伴う名称の丸括弧をすべて除去した。
- 「動詞 接尾 (助動詞)」「形容詞 接尾 (助動詞)」として定義される「(助動詞)」の部分は冗長であるので、省略し、「動詞-接尾」「形容詞-接尾」とした。
- 動詞の分類には「動詞」「動詞 非自立」「動詞 接尾」に大別されるが、茶筌の品詞階層の定義では、「動詞」という記述はすべての動詞を表すので、区別のため、「動詞-自立」「動詞-非自立」「動詞-接尾」のように「自立」という細分類を追加した。

同様に、活用語以外の単語のための品詞名については、「名詞」「名詞 固有名詞」「名詞 固有名詞 人名」「名詞 固有名詞 人名 姓」のような分類を、それぞれ、「名詞-一般」「名詞-固有名詞-一般」「名詞-固有名詞-人名-一般」「名詞-固有名詞-人名-姓」のように、「一般」という細分類を追加して、排他的に品詞の定義を行なった。

- 用言の活用形については、「未然ナイ接続」「未然レル接続」「未然ウ接続」「連用タ接続」「連用マス接続」「連用タイ接続」…のように、後続する助動詞類に応じて細かく定義されていたが、個々の活用型については、「未然」「連用」等で異なる語尾形を持つものは少ない。よって、活用形の名称は、「未然形」「連用形」「基本形」「仮定形」「命令」を基本的な活用形とし、例外的な形のものに対してのみ、THiMCO97 の活用形名を使用した。なお、茶筌では辞書出現形に対して「基本形」という活用形を与える仕様になっているため、THiMCO97 の「見出し形」という活用形名を「基本形」という名前に変更した。



5. 「未然ウ接続」は、五段活用 of 動詞については助動詞「う」が接続し、その他の活用型の動詞については「よう」が接続するための活用であるとされていた。ここでは、「う」のみを単語 (助動詞) として認め、「来よ (う)」「食べよ (う)」のように「よ」までを活用語尾とした。

- ipadic2.0 以降の辞書では、単語に新たに「発音」フィールドが追加された。これは、「日本語ディクテーション基本ソフトウェアの開発」グループの努力により添付されたものである。例えば、係助詞の「は」の読みは「ワ」、「常識」の読みは「ジョーシキ」のように長音は「ー」によって示されている。また、綴りも品詞も等しいが読みだけが異なる単語、例えば、「私 (ワタシ/ワタクシ)」については、{ ワタシ/ワタクシ } のようにすべての可能な読みを付与し、一つの語として登録した。

## 3 名詞

### 3.1 名詞-一般

# 普通名詞、あるいは、下位分類が未定の名詞。

### 3.2 名詞-固有名詞-一般

# 一般的な固有名詞、あるいは、下位分類が未定の固有名詞。

### 3.3 名詞-固有名詞-人名-一般

# 姓と名に分けられないもの、外国人名。あるいは、姓・名の決定が未定の人名。

例：「お市の方」

### 3.4 名詞-固有名詞-人名-姓

# 主に日本人の姓。

例：「山田」…

### 3.5 名詞-固有名詞-人名-名

# 主に日本人の名。

例：「太郎」…

### 3.6 名詞-固有名詞-組織

# 組織を表わす名称。

例：「通産省」「NHK」…

### 3.7 名詞-固有名詞-地域-一般

# 国名以外の地名を表わすもの。

例：「アジア」「バルセロナ」「京都」

### 3.8 名詞-固有名詞-地域-国

# 国の名前。

例：「日本」「オーストラリア」…

### 3.9 名詞-代名詞-一般

# いわゆる代名詞、不定語。

例：「それ」「ここ」「あいつ」「あなた」「あちこち」「いくつ」「どこか」「なに」「みなさん」「みんな」「わたくし」「われわれ」…

### 3.10 名詞-代名詞-縮約

# 代名詞と係助詞「は」の組み合わせで、短縮した形＜口語＞。

例：「ありゃ」「こりゃ」「こりゃあ」「そりゃ」「そりゃあ」

### 3.11 名詞-副詞可能

# 曜日、月など時間を表す副詞的な用法を持つ名詞。量や割合などを表し副詞的に使うことのできる名詞。

例：「金曜」「一月」「午後」「少量」…

\* 元の IPA 品詞体系では、「名詞-副詞可能」のうち実際に副詞的に使われてるものを「名詞 副詞可能 副詞的」、副詞的な使用が可能であるが、副詞的に用いられていないものを「名詞 副詞可能」とラベル付けされることになっているが、ここでは、文内の用法に関係なく副詞的に働き得るものをすべて「名詞-副詞可能」と呼ぶ。

### 3.12 名詞-サ変接続

# 格要素をとり、後ろに「する」「できる」「なさる」「くださる」などが後接することができるもの。

例：「インプット」「愛着」「悪化」「悪戦苦闘」「一安心」「下取り」…

\* 「オノマトペ（+スル）」は、[副詞-助詞類接続]とした。

### 3.13 名詞-形容動詞語幹

# いわゆる形容動詞語幹で、「な」の前に現れるもの。

例：「健康」「安易」「駄目」「だめ」…

\* 元の IPA 品詞体系では「名詞（形容動詞語幹）」となっていたが、第2階層の「(形容動詞語幹)」の括弧を取り除いた。

### 3.14 名詞-ナイ形容詞語幹

# 助動詞の「ない」の直前に現れて形容詞的な働きをする語

例：「申し訳」「仕方」「とんでも」「違い」…

\* 元の IPA 品詞体系では形容詞とみなされていたが、「申し訳-ない」「申し訳-ありません」「申し訳-ございません」のように派生するので、語幹として統一的に扱うことにした。ただし、「ナイ形容詞語幹」として分類された語がすべてこのような用法を持つわけではない。

### 3.15 名詞-数

# 漢数字、算用数字、および、「何（回）」「数（％）」「幾（夜）」。

例：「0」「1」「2」「何」「数」「幾」…

### 3.16 名詞-非自立-一般

# 連体詞、「の（格助詞）」、活用語の基本形に接続して使われるもののうち、以下の下位分類にあてはまらないもの。いわゆる形式名詞を含む。

\* 普通名詞としての用法であれば、連体修飾を受けていても〔非自立〕ではない。

例：「あかつき」「暁」「かい」「甲斐」「気」「きらい」「嫌い」「くせ」「癖」「こと」「事」「ごと」「毎」「しだい」「次第」「順」「せい」「所為」「ついで」「序で」「つもり」「積もり」「点」「どころ」「の」「はず」「筈」「はずみ」「弾み」「拍子」「ふう」「ふり」「振り」「ほう」「方」「旨」「もの」「物」「者」「ゆえ」「故」「ゆえん」「所以」「わけ」「訳」「わり」「割り」「割」「ん<口語>」「もん<口語>」…

### 3.17 名詞-非自立-副詞可能

# 連体詞、「の（格助詞）」、活用語の基本形に接続して使われるもののうち、副詞的に働くことが可能なもの。

\* 文脈上で、実際に副詞的に働いている場合には、IPA 品詞体系ではうしろに〔副詞的〕を付加することになっているが、それは省略した。

例：「あいだ」「間」「あげく」「挙げ句」「あと」「後」「余り」「以外」「以降」「以後」「以上」「以前」「一方」「うえ」「上」「うち」「内」「おり」「折り」「かぎり」「限り」「きり」「つきり」「結果」「ころ」「頃」「さい」「際」「最中」「さなか」「最中」「じたい」「自体」「たび」「度」「ため」「為」「つど」「都度」「とおり」「通り」「とき」「時」「ところ」「所」「とたん」「途端」「なか」「中」「のち」「後」「ばあい」「場合」「日」「ぶん」「分」「ほか」「他」「まえ」「前」「まま」「儘」「俥」「みぎり」「矢先」…

### 3.18 名詞-非自立-助動詞語幹

# 連体詞、「の（格助詞）」、活用語の基本形に接続して使われるもののうち、学校文法で助動詞とされる「ようだ」の語幹部分。

例：「よう」「やう」「様(よう)」

\* 元の IPA 体系では、「名詞-非自立-（助動詞語幹）」と書かれていた。

### 3.19 名詞-非自立-形容動詞語幹

# 連体詞、「の（格助詞）」、活用語の基本形に接続して使われるもののうち、「な（助動詞「だ」）の体言接続」と接続可能なもの。

例：「みたい」「ふう」

\* 元の IPA 体系では、「名詞 非自立（形容動詞語幹）」と書かれていた。

### 3.20 名詞-特殊-助動詞語幹

# 基本形に接続するもので、学校文法で助動詞とされている「そうだ（伝聞）」の語幹部分。

例：「そう」

\* 元の IPA 体系では、「名詞 特殊（助動詞語幹）」と書かれていた。

### 3.21 名詞-接尾-一般

# 名詞、あるいは他の品詞の語幹〔ガル接続〕や〔連用タイ接続〕に接続して複合名詞を形成する語のうち、下位の分類にあてはまらないもの。一般に「接尾語」というよりも範囲が広く、複合名詞の後ろ要素として用いられることが普通なもの。

例：「おき」「かた」「方」「甲斐（がい）」「がかり」「ぎみ」「気味」「ぐるみ」「（～した）さ」「次第」「済（ず）み」「よう」「（でき）っこ」「感」「観」「性」「学」「類」「面」「用」…

### 3.22 名詞-接尾-人名

# 名詞のうち特に人名に接続して名詞を形成する接尾語。

例：「君」「様」「著」など。

### 3.23 名詞-接尾-地域

# 名詞のうち特に地域名に接続して名詞を形成する接尾語。

例：「町」「市」「県」など。

### 3.24 名詞-接尾-サ変接続

# 名詞に接続して名詞を形成する接尾語のうち「スル」に前接し得るもの。

例：「化」「視」「分け」「入り」「落ち」「買い」

### 3.25 名詞-接尾-助動詞語幹

# 他の品詞の連用形に接続し、学校文法で助動詞の語幹とされている「そうだ（様態）」の語幹部分。

例：「そう」

\* 元の IPA 体系では、「名詞 接尾（助動詞語幹）」と書かれていた。

### 3.26 名詞-接尾-形容動詞語幹

# 他の名詞や活用語の連用形に接続する接尾語で、「だ」([助動詞特殊・ダ])に前接するもの。

例：「的」「げ」「がち」

\* 元の IPA 体系では、「名詞 接尾 (形容動詞語幹)」と書かれていた。

### 3.27 名詞-接尾-副詞可能

# 他の名詞に接続する接尾語で、副詞的に働くことが可能なもの。

\* IPA 品詞体系では、文脈上、実際に副詞的に働いているものは、うしろに「副詞的」と付加してあるが、ここでは具体的な用法にかかわらず、副詞的な使用が可能なものをすべてこの分類とした。

例：「後(ご)」「以後」「以降」「以前」「前後」「中」「末」「上」「時(じ)」

### 3.28 名詞-接尾-助数詞

# 数に接続して名詞を形成する接尾。一般の「助数詞」よりも範囲が広く、数に接続する普通名詞も含まれる。

例：「個」「つ」「本」「冊」「パーセント」「c m」「k g」「カ月」「か国」「区画」「時間」「時半」…

\* IPA 品詞体系では、これらのうち副詞的に用いられているものに「名詞 接尾 助数詞 副詞的」というタグを与えているが、これは用法に関するタグであるため、本体系では含めなかった。

### 3.29 名詞-接尾-特殊

# 主に用言につく特殊な接尾辞として新たに定義した。

例：「(楽し)さ」「(考え)方」

\* IPA 品詞体系では、「名詞 接尾」に分類されていた。

### 3.30 名詞-接続詞的

# 単語と単語を接続する接続詞的な働きをするもの。

例：「(日本)対(アメリカ)」「対(アメリカ)」「(3)対(5)」「(女優)兼(主婦)」

### 3.31 名詞-動詞非自立的

# [助詞-接続助詞]の「て」に接続するもので、意味的には動詞的なもの。

例：「ごらん」「ご覧」「御覧」「頂戴」

注 IPA 品詞体系には、単語への分割が不可能なもの、および、ことわざ、漢詩、方言、英語などを表すタグとして「名詞 引用文字列」が用意されている。また、数式を表すためのタグ「名詞 数式」が用意されている。これらは品詞タグとは考えにくいいため、本体系では正式な品詞名としては採用しない立場を取るが、現在は、「名詞 引用文字列」として「いわく」だけが残されている。

## 4 接頭詞

### 4.1 接頭詞-名詞接続

# 名詞（形容動詞語幹を含む）に前接する接頭語のうち、数に接続するもの以外。

例：「お（水）」「某（氏）」「同（社）」「故（～氏）」「高（品質）」「お（見事）」「ご（立派）」

### 4.2 接頭詞-数接続

# 名詞に前接する接頭語のうち、数に接続するもの。

例：「約」「およそ」「毎時」など

### 4.3 接頭詞-動詞接続

# 動詞の命令形あるいは〔動詞 連用形〕＋「なる／なさる／くださる」に前接する接頭語。

例：「お（読みなさい）」「お（座り）」

### 4.4 接頭詞-形容詞接続

# 形容詞に前接する接頭語。

例：「お（寒いですねえ）」「バカ（でかい）」

## 5 動詞

## 6 活用形に関する注意

未然形 THiMCO97 では以下のように細かく分類されているが、語尾形に変化のない限り、「未然形」に統一した。

- 未然レル接続

# ー（ラ）レル，ー（サ）セルに接続するもの。

例：「読ま」「さ」…

- 未然ナイ接続

# ーナイに接続するもの。

例：「読ま」「し」…

- 未然ヌ接続

# ーヌ，ー（サ）シメルに接続するもの。

例：「読ま」「せ」「来」…

- 未然ウ接続

# ー（ヨ）ウに接続するもの。

例：「読も」「し」…

& ipadic1.0以降では、助動詞ウが接続するものと定義した。例えば、「する」については、「しよ」が未然ウ接続。

**連用形** 例外的な語尾以外はすべて「連用形」という名称に統一した。

- 連用マス接続

# ーマスに接続するもの。

例：「読み」「し」「なさい」…

- 連用タイ接続

# ータイ、ーソウ、ーヅライ、一方（かた）、読点などに接続するもの。

例：「読み」「し」「なさり」「向かひ」「習ひ」…

- 連用タ接続

# ータ、ーテに接続するもの。

例：「読ん」「書い」「行っ」「問う」…

**基本形** THiMCO97では、「見出し形」と呼ばれているもの。

# 句点、体言、ーマイなどに接続するもの。

例：「読む」「なさる」「問う」…

**仮定形** THiMCO97では、「仮定バ接続」と呼ばれている。

# ーバ、ードモに接続するもの。

例：「読め」「すれ」…

**命令 i** # 力変・五段ラ行特殊の命令形。およびサ変・スルの命令形「せよ」の口語形。

例：「来い」「なさい」「せい」…

**命令 e** # 五段の命令形、文語已然形、一段動詞の語幹止め命令用法（「くれ」のみ）。

例：「読め」「(とは) いえ」「(程度の差こそ) あれ」「(やめて) くれ」…

\* 「(やめて) くれ」は「(やめて) くれろ」の「ろ」が落ちた形。「くれる」は一段動詞の中の特殊活用型とすべきものである。なお、「(やめて) (お) くれ (なさい)」の「くれ」は〔動詞-非自立 一段 連用タイ接続〕であり、別のものであり、この口語形は「おくんない」となる。

**命令 y o** # 一段・サ変・文語（力変）の命令形で「y o」で終わるもの。

例：「せよ」「みよ」「来よ」…

**命令 r o** # 一段・サ変の命令形で「r o」で終わるもの。

例：「しろ」「みろ」…

**ベキ接続** # 「ベキ」につづく形、サ変の場合のみ。

例：「す」…

**仮定縮約 1** # 仮定バ接続と「バ」とが合わさって短縮した形＜口語＞。

例：「分かれりゃ」

**体言接続** # 文語の場合のみ。見出し形と異なる形があるもの。

例：「助くる」(cf.「助く」)

**体言接続特殊 #** 「る」で終る動詞が「の」などに接続する場合に音便化した形＜口語＞。

例：「(何) すん (の?)」

**体言接続特殊 2 #** 「来る」「する」「とる」などの「体言接続特殊」の語末の「ん」が欠落したもの。＜口語＞。

## 7 動詞の活用型一覧 (現代語)

## 【活用形】の位置には次のものが入る。([ ] の記号はない)

### 7.1 動詞-自立 力変 【活用形】

例：「くる」「来る」「やってくる」「やって来る」

### 7.2 動詞-非自立 力変 【活用形】

例：「(て) くる」「(て) 来る」

### 7.3 動詞-自立 サ変・スル 【活用形】

# 「する」、および、[名詞 サ変接続] に接続する「する」。

例：「する」

### 7.4 動詞-自立 サ変・ースル 【活用形】

# 和語系のサ変動詞。

例：「接する」…

\* 「ーし+ない」「ーせ+られる」「ーせ+ぬ」「ーし+よう」「ーする」「ーすれ+ば」「ーせよ」「ーしろ」の形だけを[動詞 サ変・スル]とした。「ーし+、」「ーし+た」「ーし+たい」などの連用形はすべて[動詞 五段・サ行]とした。

### 7.5 動詞-自立 サ変・ーズル 【活用形】

# 和語系のザ変動詞。

例：「信ずる」…

\* 「ーぜ+られる」「ーぜ+ぬ」「ーずる」「ーずれ+ば」「ーぜよ」「ーず+べし」の形だけを[動詞 サ変・ーズル]とした。「ーじ+ない」「ーじ+よう」の未然形および「ーじ+、」「ーじ+た」「ーじ+たい」などの連用形、および「ーじろ」の命令形は[動詞 一段]とした。

### 7.6 動詞-自立 一段 【活用形】

# いわゆる上一段活用および下一段活用。



例：「着る」

＊ 「病める」は、[基本形]のみ。

## 7.7 動詞-非自立 一段 【活用形】

例：「あげる」「うる」「える」「得る」「おえる」「終える」「おおせる」「かねる」「兼ねる」「かける」「きれる」「切れる」「すぎる」「過ぎる」「そこねる」「損ねる」「そびれる」「そめる」「初める」「つける」「つづける」「続ける」「(お読み) できる」「(お読み) 出来る」「はじめる」「始める」「(て) いる」「(～しては) いけ (ない)」「(て) くれる」「(て) 差し上げる」「(て) のける」「(て) みる」「(て) みせる」「(て) もらえる」「(て) る<口語>」

＊ 「(～しては) いけ (ない)」の基本形は「いける」。

＊ 「(勉強) できる」は[非自立]としない。

＊ 「うる」は、「うる」([基本形])と「うれ」([假定形])のみ。「う」は[動詞 文語 基本形]とする。

## 7.8 動詞-接尾 一段 【活用形】

# 学校文法では助動詞と呼ばれているもの。

例：「させる」「せる」「しめる」「しむる」「られる」「れる」

## 7.9 動詞-自立 五段・力行イ音便 【活用形】

# 五段力行で、[助詞 接続助詞]の「て」に接続するときにイ音便になるもの。

例：「解く」「聞く」…

## 7.10 動詞-非自立 五段・力行イ音便 【活用形】

例：「つづく」「続く」「ぬく」「抜く」「(て) いただく」「(て) 頂く」「(て) おく」「とく<口語>」「どく<口語>」

## 7.11 動詞-非自立 五段・力行促音便 【活用形】

# 五段力行で、[助詞 接続助詞]の「て」に接続するときに促音便になるもの。

例：「いく」「行く」「ゆく」

＊ 「ゆく」には、「ゆっ (て)」の形はないが、このタグを振る。「ゆき (て)」は[動詞 文語 連用タ接続]とする。

## 7.12 動詞-非自立 五段・力行促音便 【活用形】

例：「いく」「行く」「ゆく」「く<口語>」

＊ 「ゆく」には、「ゆっ (て)」の形はないが、このタグを振る。「ゆき (て)」は[動詞 文語 連用タ接続]とする。

### 7.13 動詞-自立 五段・ガ行 【活用形】

# 五段ガ行で、[助詞 接続助詞]の「て」に接続するときにイ音便になるもの。

例：「繼ぐ」「急ぐ」…

### 7.14 動詞-自立 五段・サ行 【活用形】

# 五段サ行で、[助詞 接続助詞]の「て」に接続するときに音便化しないもの。

例：「話す」…

### 7.15 動詞-非自立 五段・サ行 【活用形】

例：「いたす」「致す」「だす」「出す」「つくす」「尽くす」「直す」

### 7.16 動詞-自立 五段・タ行 【活用形】

# 五段タ行で、[助詞 接続助詞]の「て」に接続するときに促音便になるもの。

例：「持つ」…

### 7.17 動詞-自立 五段・ナ行 【活用形】

# 五段ナ行で、[助詞 接続助詞]の「て」に接続するときにハツ音便になるもの。

例：「死ぬ」

### 7.18 動詞-自立 五段・バ行 【活用形】

# 五段バ行で、[助詞 接続助詞]の「て」に接続するときにハツ音便になるもの。

例：「呼ぶ」…

### 7.19 動詞-自立 五段・マ行 【活用形】

# 五段マ行で、[助詞 接続助詞]の「て」に接続するときにハツ音便になるもの。

例：「進む」…

### 7.20 動詞-非自立 五段・マ行 【活用形】

例：「こむ」「込む」

### 7.21 動詞-自立 五段・ラ行 【活用形】

# 五段ラ行で、[助詞 接続助詞]の「て」に接続するときに促音便になるもの。

例：「切る」「なる」…

## 7.22 動詞-非自立 五段・ラ行 【活用形】

例：「おわる」「終る」「終わる」「かかる」「きる」「切る」「しぶる」「渋る」「まいる」「まわる」「回る」「やがる」「(せねば／しては) なら (ない)」「(て) ある」「(て) おる」「(て) まわる」「(て) 回る」「(て) やる」「ちやる<口語>」「じゃる<口語>」「ぢやる<口語>」

\* 「なら (ない)」の基本形は「なる」

## 7.23 動詞-接尾 五段・ラ行 【活用形】

例：「がる」

## 7.24 動詞-自立 五段・ラ行特殊 【活用形】

# 五段ラ行で、助動詞「ます」に接続する形および命令形が「ーい」の形になるもの。

例：「いらっしゃる」「おっしゃる」「仰言る」「くださる」「下さる」「なさる」「ござる」

## 7.25 動詞-非自立 五段・ラ行特殊 【活用形】

例：「(お読み) なさる」「(お読み) くださる」「(お読み) 下さる」「(て) くださる」「(て) 下さる」「(て) いらっしゃる」「(て) らっしゃる<口語>」

## 7.26 動詞-自立 五段・ワ行ウ音便 【活用形】

# 五段ワ行で、[助詞 接続助詞] の「て」に接続するときにウ音便になるもの。

例：「問う」「乞う」「沿う (て)」「ゆう (て)」「食う (て)」「すう (て)」「負う (て)」

\* [動詞 五段・ワ行促音便] の動詞については、「て」に接続する活用語尾が「う」になっている場合のみ、このタグを振り、それ以外は、[動詞 五段・ワ行促音便] を振る。(人手修正データ中に現れたものは「ゆう」「食う」「すう」「負う」)

## 7.27 動詞-非自立 五段・ワ行ウ音便 【活用形】

例：「たまう」「給う」

## 7.28 動詞-自立 五段・ワ行促音便 【活用形】

# 五段ワ行で、[助詞 接続助詞] の「て」に接続するときに促音便になるもの。

例：「言う」「ゆう」「食う」「負う」「憂う」…

\* 「憂う」には「憂って」はないが、このタグを振る。(人手修正データ中に現れたものは「憂い (、)」の形のみ)

\* [動詞 五段・ワ行促音便] の動詞については、「て」に接続する活用語尾が「う」になっている場合のみ、[動詞 五段・ワ行ウ音便] を振る。

## 7.29 動詞-非自立 五段・ワ行促音便 【活用形】

例：「あう」「合う」「そこなう」「損なう」「(て) しまう」「(て) もらう」「じゃう<口語>」「じまう<口語>」「ちまう<口語>」「ちゃう<口語>」

## 8 動詞の活用型一覧(文語)

IPA 品詞体系では、文語の活用型の細分類は行われていない。IPADIC2.4 以降では、四段、上二、下二などの各活用型を定義したが、辞書中の実例はまだ充実していない。活用体系が文語残存のものと、口語ではあるが歴史仮名づかいで示されているものを含む。

### 8.1 動詞-自立 四段・ハ行 【活用形】

例：「いふ」「云ふ」「向かふ」「習ふ」「思ふ」「能ふ」など。

\* 四段にはその他、「カ行」「ガ行」「サ行」「タ行」「バ行」「マ行」「ラ行」が定義されている。

### 8.2 動詞-自立 ラ変 【活用形】

例：「あり」「なり」「しかり」

### 8.3 動詞-自立 上二・ハ行 【活用形】

\* その他、「ダ行」がある。

### 8.4 動詞-自立 下二・ア行 【活用形】

\* その他、「カ行」「ガ行」「サ行」「ザ行」「タ行」「ダ行」「ナ行」「ハ行」「バ行」「マ行」「ヤ行」「ラ行」「ワ行」「得」がある。

### 8.5 動詞-自立 一段・得ル 【活用形】

# 古語「得る」の活用型。基本形と假定形のみ。

## 9 形容詞

「見出し形」「假定バ接続」「文語見出し形」をそれぞれ「基本形」「假定形」「文語基本形」と呼ぶ以外は、ほぼ THiMCO97 で用いられている活用形名を用いた。なお、形容詞の活用型を「形容詞・アウオ段」「形容詞・イ段」「形容詞・文語」に分類した。

未然又接続

# 一又に接続するもの。

例：「寒から」…

未然ウ接続

# ーウに接続するもの。

例：「寒かろ」…

### 連用タ接続

# ータに接続するもの。

例：「寒かつ」…

### 連用テ接続

# ーテ，ーナイ，ーナル，ースル，読点に接続するもの。

例：「寒く」…

### 連用ゴザイ接続

# ーゴザイマスに接続するもの。

例：「寒う」「大きゅう」「のう」…

### 基本形

# 句点，体言などに接続するもの。

例：「寒い」「大きい」「ない」…

### 体言接続

# 文語活用で体言に接続するもの。

例：「寒き」「なき」…

& 基本形には「ーイ」の形を入れた。

### 假定形

# ーバに接続するもの。

例：「寒けれ」「なけれ」…

& THiMCO97 では「假定バ接続」と呼ばれていた。

### 命令

# 文語活用で命令形のもの。

例：「よかれ」「美しかれ」…

& 終止形には「ーイ」の形を入れた。

## 文語基本形

# ーシで終わるもの。

例：「良し」「遠し」「やむなし」…

## 假定縮約 1

# 假定バ接続と「バ」とが合わさって短縮した形 1 <口語>。

例：「欲しけりゃ」「(それが) なけりゃ (困る)」

## 假定縮約 2

# 假定バ接続と「バ」とが合わさって短縮した形 2 <口語>。

例：「(それが) なきゃ (困る)」

## ガル接続

# ーガル, ーゲ, ーソウに接続するもの。

例：「寒」「悲し」…

## 【活用形】の位置には次のものが入る。(【】の記号はない)

## 9.1 形容詞-自立 形容詞・アウオ段 【活用形】

# 形容詞の活用型のうち、語幹の最後の母音がアウオのいずれかで終わるもの。

例：「青い」「赤い」「厚い」「暑い」「熱い」…

\* IPA 品詞体系では、「ない」の文語見出し形「なし」を形容詞の文語型活用の見出し形として定義しているが、本体系では、「形容詞・アウオ段 (あるいは、形容詞・イ段)」型の「文語基本形」という活用形として定義している。同様に、IPA 体系で形容詞の文語型活用の体言接続と定義されている「悪しき」などは、本体系では他の形容詞と同様に「体言接続」として定義した。

## 9.2 形容詞-自立 形容詞・イ段 【活用形】

# 形容詞の活用型のうち、語幹の最後の母音がイで終わるもの。

例：「衰しい」「楽しい」「頼もしい」…

### 9.3 形容詞-自立 形容詞・不変化型 【活用形】

# 形容詞の中で「基本形」の用法しかもないもの。

例：「いい」「カッコいい」「ええ」

### 9.4 形容詞-非自立 形容詞・アウオ段 【活用形】

# 動詞の「連用タイ接続」あるいは「連用タ接続」に後接する形容詞。

例：「がたい」「難い」「づらい」「にくい」「やすい」「(て) よい」「(て) 良い」

### 9.5 形容詞-非自立 形容詞・イ段 【活用形】

# 動詞の「連用タイ接続」あるいは「連用タ接続」に後接する形容詞。

例：「らしい」「(て) ほしい」「(て) 欲しい」

### 9.6 形容詞-非自立 形容詞・不変化型 【活用形】

# 動詞の「連用タイ接続」あるいは「連用タ接続」に後接する形容詞で「基本形」の用法しかもないもの。

例：「いい」

### 9.7 形容詞-接尾 形容詞・アウオ段 【活用形】

# 学校文法では助動詞とされるもの。

例：「(食べ) たい」

### 9.8 形容詞-接尾 形容詞・イ段 【活用形】

# 学校文法では助動詞とされるもの。

例：「(嫌味) たらしい」

## 10 副詞

### 10.1 副詞-一般

# 必ず後ろで切れるもの、連体修飾が不可能なもの。

例：「あいかわらず」「多分」など。

### 10.2 副詞-助詞類接続

# 「の」「は」「に」「な」「する」「だ」などが後続することが可能な副詞。

例：「こんなに」「そんなに」「あんなに」「なにか」「なんでも」

## 11 連体詞

### 11.1 連体詞

# 名詞を修飾する形しかもたないもの。

例：「この」「その」「あの」「どの」「いわゆる」「なんらかの」「何らかの」「いろんな」「こういう」「そういう」「ああいう」「どういう」「こんな」「そんな」「あんな」「どんな」「大きな」「小さな」「おかしな」「ほんの」「たいした」「(一も) さる (ことながら)」「微々たる」「堂々たる」「単なる」「いかなる」「我が」「同じ」「亡き」…

## 12 接続詞

### 12.1 接続詞

# 独立に現れる接続詞。

例：「が」「けれども」「そして」「じゃあ」「それどころか」…

## 13 助詞

### 13.1 助詞-格助詞-一般

# いわゆる格助詞。

\* 「にて」も格助詞に含めた。「の」には格助詞としての用法と名詞と名詞を接続するいわゆる「AのB」用法があるが、後者は「助詞 連体化」とした。

例：「から」「が」「で」「と」「に」「へ」「より」「を」「の」「にて」

### 13.2 助詞-格助詞-引用

# 名詞、人物の台詞「」、会議の決定事項、理由、判決、推測表現等の直後の「と」。

例：「(～だ) と (述べた。)」 「(～である) と (して執行猶予…)」

### 13.3 助詞-格助詞-連語

# 格助詞と動詞との連語で、主に格助詞に相当するような働きを持つもの。

例：「という」「といった」「とかいう」「として」「とともに」「と共に」「でもって」「にあたって」「に当たって」「に当って」「にあたり」「に当たり」「に当り」「に当たる」「にあたる」「において」「に於いて」「に於て」「における」「に於ける」「にかけ」「にかけて」「にかんし」「に関し」「にかんして」「に関して」「にかんする」「に関する」「に際し」「に際して」「にしたがい」「に従い」「に従う」「にしたがって」「に従って」「にたいし」「に対し」「にたいして」「に対して」「にたいする」「に対する」「について」「につき」「につけ」「につけて」「につれ」「につれて」「にとり」「にとり」「にまつわる」「によって」「に依って」「に因って」「により」「に依り」「に因り」「による」「に依る」「に因る」「にわたって」「にわたる」「をもって」「を以って」「を通じ」「を通じて」「を通して」「をめぐって」「をめぐり」「をめぐる」「って



＜口語＞」「ちゅう＜関西弁「という」＞」「(何) ていう (人) ＜口語＞」「っていう＜口語＞」「といふ」「とかいふ」

### 13.4 助詞-接続助詞

例：「から」「からには」「が」「けれど」「けれども」「けど」「し」「つつ」「て」「で」「と」「ところが」「どころか」「とも」「ども」「ながら」「なり」「ので」「のに」「ば」「ものの」「や (～した)」「やいなや」「(ころん) じゃ (いけない) ＜口語＞」「(行っ) ちゃ (いけない) ＜口語＞」「(言っ) たって (しかたがない) ＜口語＞」「(それがなく) ったって (平気) ＜口語＞」

### 13.5 助詞-係助詞

例：「こそ」「さえ」「しか」「すら」「は」「も」「ぞ」

### 13.6 助詞-副助詞

例：「がてら」「かも」「くらい」「位」「ぐらい」「しも」「(学校) じゃ (これが流行っている) ＜口語＞」「(それ) じゃあ (よくない) ＜口語＞」「ずつ」「(私) なぞ」「など」「(私) なり (に)」「(先生) なんか (大嫌い) ＜口語＞」「(私) なんぞ」「(先生) なんて (大嫌い) ＜口語＞」「のみ」「だけ」「(私) だって ＜口語＞」「だに」「(彼) ったら＜口語＞」「(お茶) でも (いかが)」「等 (とう)」「(今後) とも」「ばかり」「ばっか＜口語＞」「ばっかり＜口語＞」「ほど」「程」「まで」「迄」「(誰) も (が)〔助詞-格助詞〕および〔助詞-係助詞〕の前に位置する「も」

### 13.7 助詞-並立助詞

例：「と」「たり」「だの」「だり」「とか」「なり」「や」「やら」

### 13.8 助詞-終助詞

例：「かい」「かしら」「さ」「ぜ」「(だ) っけ＜口語＞」「(とまってる) で＜方言＞」「な」「ナ」「なあ＜口語＞」「ぞ」「ね」「ネ」「ねえ＜口語＞」「ねえ＜口語＞」「ねん＜方言＞」「の」「のう＜口語＞」「や」「よ」「ヨ」「よお＜口語＞」「わ」「わい＜口語＞」

\* 終助詞の「や」は「(まあいい) や」「(すごい) や」など。関西方言の断定の「や」は、不変化活用の助動詞として扱う。

### 13.9 助詞-副助詞／並立助詞／終助詞

# 「か」のうち、副助詞、並立助詞、終助詞いずれかわからないもの、たとえば、次の (a)(b)(c) のようなもの。

# (a) 「AかBか」型。例：「(国内で運用する) か、(海外で運用する) か (。)」

# (b) 副詞節中。例：「(幸いという) か (、死者はいなかった。)」 「(祈りが届いたせい) か (、試験に合格した。)」

# (c) 「かのように」。例：「(何もなかった) か (のように振る舞った。)」

例：「か」

＊ 最新の IPA 品詞体系では、これをさらに「副助詞」「並立助詞」「終助詞」に細分類しているが、本体系では区別しなかった。

### 13.10 助詞-連体化

# [名詞] に接続して体言にかかる「の」。

＊ THiMCO97 では、この用法の「の」も格助詞に分類されている。

### 13.11 助詞-副詞化

# 擬音語、擬声語、擬態語及びそれに類する名詞や副詞の直後の「に」「と」。

例：「に」「と」

＊ ただし、「する」「なる」に係っているもので、状態変化を表す場合は格助詞とする。

### 13.12 助詞-特殊

# 以上の分類にあてはまらないもの。短歌や俳句等に用いられる助詞などを含む。

例：「かな」「けむ」「(～したろう) に」「(あんた) にゃ (わからん)」「(俺) ん (家)」

### 13.13 助詞-間投助詞

# IPA 辞書には元々なかった品詞。文語的な用法をもつ。ipadic2.4 以降で定義した。

例：「(松島) や」

## 14 助動詞

### 14.1 助動詞 五段・ラ行アル 【活用形】

# 動詞型の活用助動詞。「である」「ではある」などの「ある」。

例：「ある」

### 14.2 助動詞 五段・ラ行ゴザル 【活用形】

# 動詞型の活用助動詞「ござる」。

例：「ござる」

### 14.3 助動詞 形容詞・イ段 【活用形】

# 形容詞型活用の助動詞。

例：「らしい」

#### 14.4 助動詞 特殊・ナイ 【活用形】

# 否定の助動詞「ない」の活用型。

例：「ない」

#### 14.5 助動詞 特殊・タ 【活用形】

# 完了を表す助動詞「た」の活用型。

例：「た」「だ」

\* 「(学ん)だ」「(泳い)だ」のように五段活用のガ行、ナ行、バ行、マ行に接続する場合には表層形が「だ」になるため、本体系では、それぞれ別の語幹をもつ形態素として定義した。

#### 14.6 助動詞 特殊・ダ 【活用形】

# 断定の助動詞「だ」の活用型。

例：「だ」

#### 14.7 助動詞 特殊・デス 【活用形】

# 断定の助動詞「です」の活用型。

例：「です」

#### 14.8 助動詞 特殊・ジャ 【活用形】

# 断定の助動詞「じゃ」の活用型。

例：「じゃ」

\* 断定の「だ」が鈍ったもの。

#### 14.9 助動詞 特殊・マス 【活用形】

# 謙譲・丁寧を表わす助動詞「ます」の活用型。

例：「ます」

#### 14.10 助動詞 特殊・ヌ 【活用形】

# 否定の助動詞「ぬ」の活用型。

例：「ぬ」

### 14.11 助動詞 特殊・ヤ 【活用形】

# 関西方言の断定を表す助動詞。

例：「(そう) や」

### 14.12 助動詞 不変化型 【活用形】

# 現代では活用しない助動詞。活用が想定できない口語や方言も含む。

例：「う」「まい」「(いざ行か) ん (む)」「(去り) ぬ」「(わから) ん<口語>」「(賜う) ン」「～(美しい/学生) じゃん<口語>」「(いい) っす<口語>」「(負けてなら) じ」など。

### 14.13 助動詞 文語・?? 【活用形】

# 文語の助動詞。現在定義されている活用型は次の通り。「文語・ベシ」「文語・ゴトシ」「文語・ナリ」「文語・マジ」「文語・シム」「文語・キ」「文語・ケリ」「文語・ル」「文語・リ」

例：「べし」「ごとし」「如し」「たり」「なり」「まじ」「き」「けり」「り」「る」

\* IPA 品詞体系では、「じ」のための活用型が用意されているが、実際には不変化であるので、ここでは不変化型とした。

## 15 感動詞

### 15.1 感動詞

# 感動詞。あいさつなど。

例：「おはよう」「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「ありがとう」「どうもありがとう」「ありがとうございます」「いただきます」「ごちそうさま」「さよなら」「さようなら」「はい」「いいえ」「ごめん」「ごめんなさい」…

## 16 記号

### 16.1 記号-一般

# 以下の分類以外の一般的な記号。

例：「○」「◎」「@」「\$」「〒」「→」「+」など。

### 16.2 記号-アルファベット

# 英語のアルファベット。大文字、小文字。

例：「A」「a」

### 16.3 記号-句点

# いわゆる句点。

例：「。」「。」

### 16.4 記号-読点

# いわゆる読点。

例：「、」「、」

### 16.5 記号-空白

# 全角の空白文字（画面上には見えない）。

### 16.6 記号-括弧開

例：「(」「{」「『」「“」「『」「【」…

### 16.7 記号-括弧閉

例：「)」「}」「'」「”」「』」「】」…

## 17 フィラー

### 17.1 フィラー

# 話し言葉で起こるあいずちや挿入的な音声ことば

例：「あの」「うんと」「えと」

## 18 その他

### 18.1 その他-間投

# [名詞-接尾] や、[助詞-終助詞] としにくいもの。

例：「(だ) ア」

## 参考文献

- [1] 研究開発用知的資源タグ付きテキストコーパス報告書 平成9年度, テキストサブワーキンググループ, 技術研究組合 新情報処理開発機構, 1998.